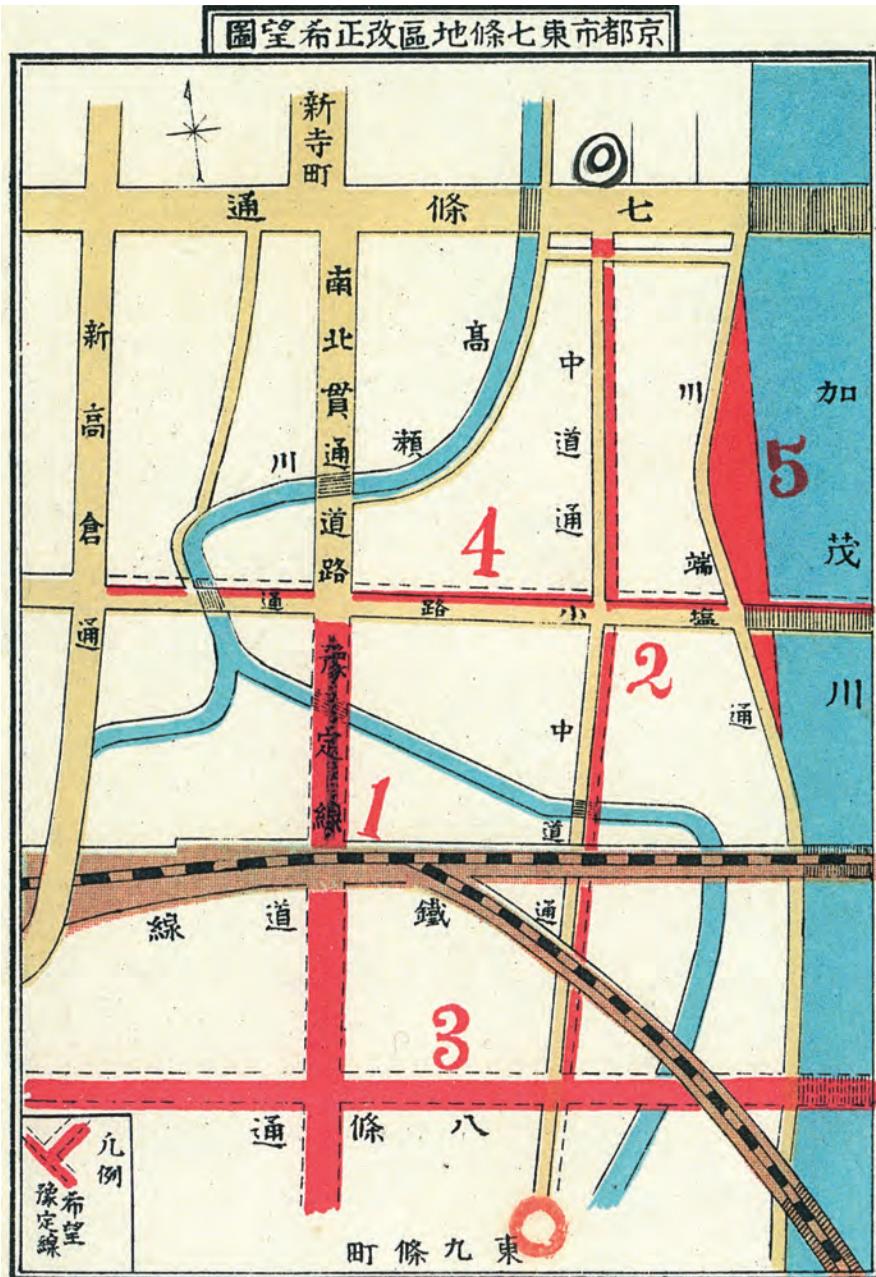
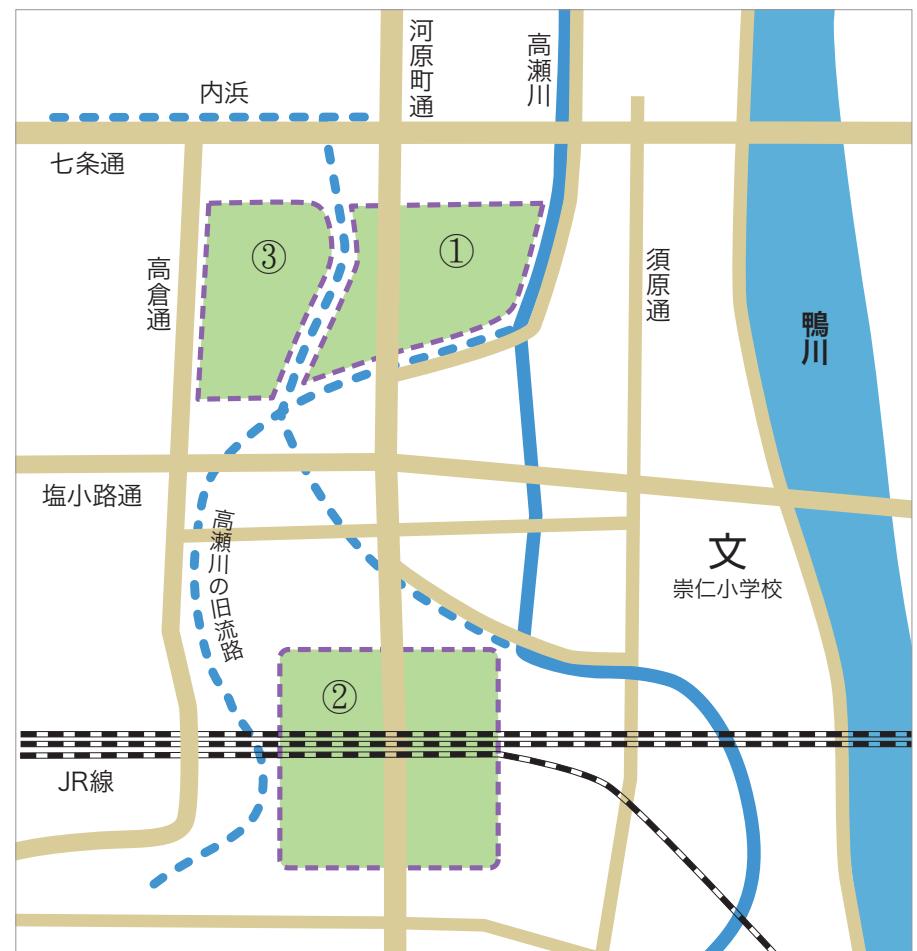


水のみちをたどる *Tracing Suujin* フィールドワーク

2015/4/4



東七条地区改正希望図（1922年）：1.内浜から九条までの南北道路貫通、2.中道通の七条・九条間直通、3.八条通拡幅と伏見街道との直結、4.塩小路通の拡張、5.七条大橋以南の川端通護岸埋立等を訴える

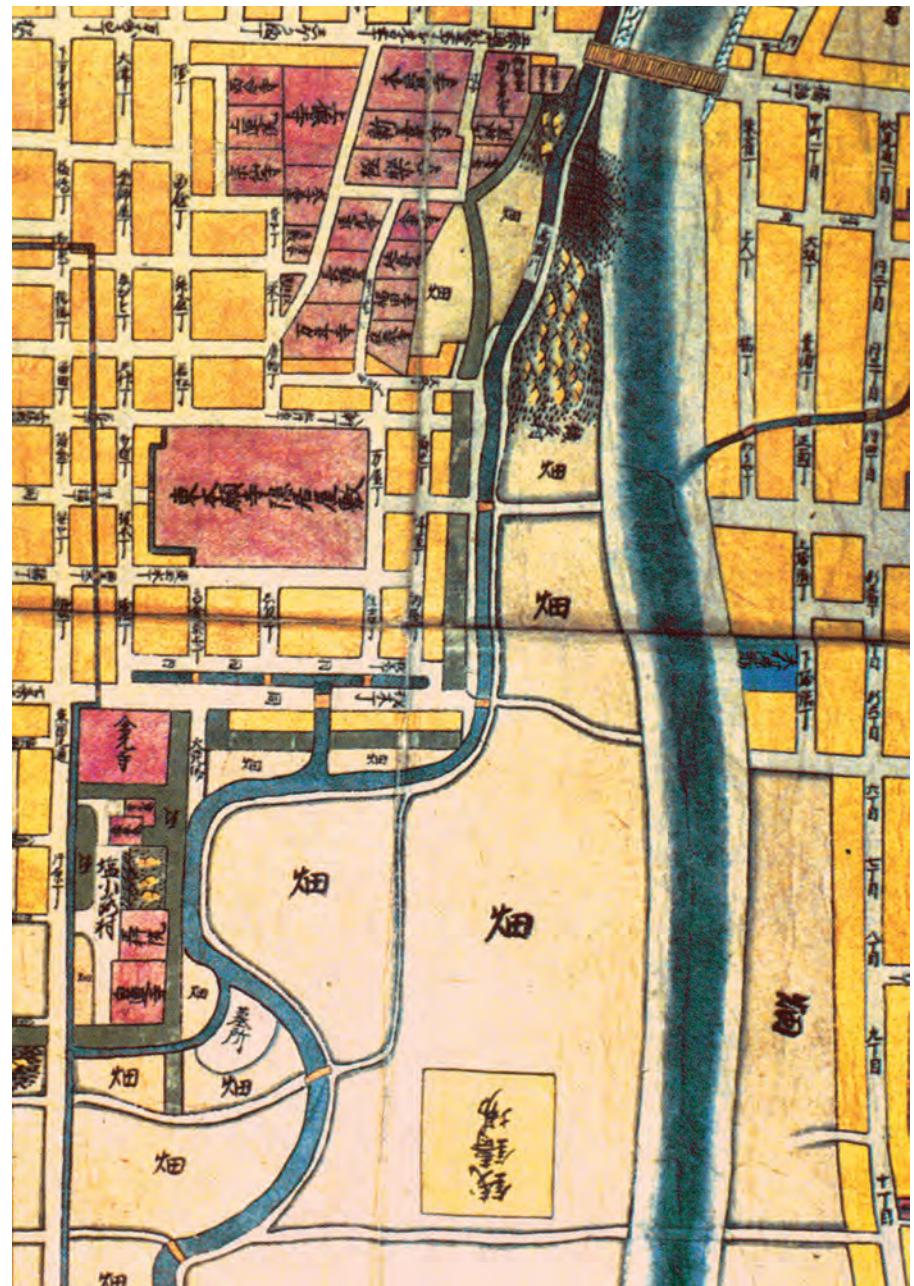


柳原庄の発展

- ① 六条村：1714(正徳4)年 六条河原から移転
 - ② 錢座跡村：1732(享保17)年 開発
 - ③ 大西組：1843(天保14)年 開発

水のみち、人のみち～崇仁地域の歴史地理メモ～

- 中世 室町時代以降、河原者が幕府の侍所の下で死刑執行などの刑吏役に従事。近世以降は主に天部村と六条村の人々が担う。
- 1614 角倉了以とその子素庵により運河・高瀬川が開設。七条通北につくられた内浜が高瀬舟発着所となり、伏見一京都市中の物資輸送を行う。
- 1641 徳川家光、東本願寺に東洞院以東の六条・七条間の土地を寄贈。
御土居の移築と高瀬川の付け替え工事。
- 1663 五条橋南の鴨川と高瀬川のあいだの六条河原に建家が許される。
*『諸式留帳』(六条村年寄嘉兵衛著、1634～1740年、京都大学蔵)による。右絵図参照。
- 1707 六条村、妙法院から七条通南側・高瀬川北岸の地に替え地を命じられる。移転料500貫、広さは倍になったが、土地が低いため、土入れにより3尺の築地上げ。
- 1714 六条村が六条河原から天部村の畠地（柳原庄内小稻荷七条通御土居南東）の隣に移転。非人小屋（水車小屋）も六条河原から同地に移転。六条村に入る高瀬川の橋のたもとには角倉の会所があった。当時六条村は、高瀬川に囲まれた「水辺に浮ぶ空間」として高瀬舟が行き交う都の入口であった。
- 1732 六条村の人口増に対処するため、南にあった錢座跡に新村開発（錢座跡村）。
- 1843 六条村の西にあった天部村の畠地に宅地開発、大西組と称される。
- 1873 六条村・錢座跡村・大西組の3村が新柳原庄を形成。
西光寺内に柳原小学校（のちの崇仁小学校）開校。
- 1870 高瀬舟、物資輸送以外に旅船としても利用される（～1910）。
- 1877 七条停車場に初代京都駅完成、京都一神戸間鉄道開通。
- 1899 明石民藏ら、地域の経済基盤や教育を育成・支援するため、柳原銀行設立。
- 1903 塩小路通完成。
- 1907 塩小路通に柳原銀行本社屋上棟。
- 1914 京都駅の改築と鉄道の200m南下に伴い、高瀬川屈曲工事。
町が二分され、雨期に水害多発。
- 1920 高瀬川の物資輸送廃止。
- 1922 全国水平社創立。崇仁小学校長・伊東茂光による南北貫通道路請願運動。2年半後、鉄道をくぐる「ガード」が開設され、「あかずの踏切」の問題解決。
- 1996 崇仁まちづくり推進委員会結成。曲がりくねった高瀬川を南北に直交させることを主軸とする「崇仁まちづくり計画構想案」。工事着工は1999年。
- 1997 柳原銀行記念資料館開館。
- 2002 高瀬川付け替え工事完成。崇仁小学校運動場南の高瀬川沿いにビオトープ完成。
- 2005 八条坊門立体交差工事が完成、河原町通のJR南側への全面開通。
- 2013 平成の京町家モデル住宅展示場(KYOMO)オープン。



元禄14年實測大絵図（1691、慶應義塾大学三田図書館蔵）より六条村部分
六条村（「穢多村」と記載）が鴨川と高瀬川のあいだの六条河原にあったことを示す貴重な資料